

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773800034		
法人名	社会福祉法人 久仙会		
事業所名	まがい友遊苑		
所在地	沖縄県島尻郡久米島町字真我里366番地		
自己評価作成日	令和2年 9 月 10 日	評価結果市町村受理日	令和2年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=4773800034-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	令和2年 10 月 21 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・回想法を取り入れた歌や、計算問題、パズル、漢字・文字時並べ、ぬり絵、体操等を実施したことで一人ひとりイキイキとした表情がみられ日常生活に活気がでている。 ・自治会への加入で地域との馴染みの関係性ができ、地域行事の参加、交流が増え、社会との繋がりができた。 ・リフト車(贈呈)がある事で利用者の希望がある時はすぐに外出が出来る環境が整った。 ・法人デイサービス、地域との交流の場を持ち親睦を深めています。 ・四季手芸に取り組み、出来上がった作品をホール内に展示し四季を感じ、作り上げ達成感を味わっていただくことができた。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開所当時から、理念に掲げている思いを大切に家庭的な雰囲気サービスを提供している。また、共用型指定認知症対応型通所介護の提供として3名を受け入れている。毎日提供される1日3食の食事は、事業所内で職員が調理し、コロナの影響による配慮された環境の中で、利用者と職員は、同じ食卓で地元の旬の食材や入居者に合わせた味付けで食事も家庭的な雰囲気の中でとることができている。地域とのつながりも重視して、入居した後も馴染みの地域、馴染みの人たちとの関わりが持てるように、利用者本人や家族の意向を確認し、支援している。支援していく中で本人や家族の意向が変わった時には、柔軟に対応し、本人と家族が納得いく支援ができるように心がけている。就業規則も整備されており、職員の健康診断、ストレスチェックの実施、勉強会や研修の機会、資格取得の支援も行われている。法人や管理者は、職員一人一人が行っている業務の重要性、事業所の役割を理解し、全職員が仕事へのやりがいを持ち、働きやすさを感じながら業務が行えるよう環境づくりをしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した理念を作り入居者、ご家族、訪問者、職員が見えやすいように玄関に掲示しています。またパンフレットや毎月発行している、まがい通信にも記載、月1回の職員会議で唱和する事で管理者と職員は理念を共有している。	管理者をはじめ職員全員が、地域の中で暮らし続けていくことを支えていくサービスであることを認識している。事業所の理念を施設内に掲示し、月1回のミーティングでの唱和と意識付けを行うために理念を掘り下げた話し合いをしている。日々のケアの中で言葉かけや態度を振り返り、理念を掲げるだけでなく「ふれあいを大切に、日々笑顔で暮らす生活」の実践につなげている、	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	真我里地区への加入をした事で、地域、施設、行事をとおして行き来があり、事業所も地域の一員として、日常的に交流している。	2年前から地域の自治会に加入して、地域とのつながりをつくり、区長や青年会員も運営推進委員会へ参加している。地域の行事の情報集めはもちろんのこと、行事だけの関わりではなく、毎月地域との相互関係を大切にしている。コロナの影響で去年の12月のクリスマス忘年会の行事を最後に、今年の行事は実施できていない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、町社会福祉協議会、公立久米島病院等との情報交換等を行いながら、運営推進会議や、地域交流の場で認知症の方々への支援、ご家族からの相談等電話にて対応行う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し事業の報告を行っている。委員より行事の際に協力したいと意見があり、宛外の行事がスムーズにできました。新型コロナウイルス感染症防止として4月23日、8月20日は文書での開催とし委員から意見を受けるようにしました。	運営推進会議は2か月に1回偶数月に開催されている。行政職員と包括支援センター職員へは、会議への参加協力を説明・依頼し、毎月参加となっている。利用者、家族、区長、青年会員、知見者、法人職員の参加もある。運営状況や活動報告、事故報告等意見交換がされている。会議の開催2回はコロナのため、電話や文書にて意見交換、議事録配布を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日頃から連絡を密にとり電話対応や、足を運び連絡をとるようにしている。介護保険の更新手続き、空き状況、災害時(台風)の状況等報告行う。	行政担当者は運営推進会議の構成員でもあり、日ごろから事業所の状況や取組等の相談、報告を行っている。運営推進会議の後に、職員や利用者との交流も行われている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解し、日々の業務に活かしています。玄関の施錠を含めて、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。身体拘束委員会の設置並びに勉強会開催	身体拘束等の適正化のための指針をもとに、対策を検討する委員会を3か月に1回開催している。身体拘束をしないケアの勉強会や日頃のケアを振り返り利用者への支援が身体拘束になっていないかの検証等を行っている。法人での研修にも定期的に参加している。マニュアルも整備され、議事録の記録もされている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止法」に関する勉強会を開催、事例等をあげ、虐待に該当か否かを話し合い、職員の意識向上を図り、事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めています。	勉強会の実施や研修に参加して、虐待防止に関する理解に向けた取り組みを行っている。管理者は、職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響しないように、職員の健康状態にも留意し、相談にのっている。利用者への言葉かけなどには職員全員で気をかけ、管理者からの声掛けや注意などを行っている。高齢者虐待防止マニュアルの整備もされている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人(司法書士)、権利擁護事業(町社会福祉協議会)とのつながり中で学ぶ機会を持ち、必要がある場合に支援をおこなっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	運営規定第13条 入退居にあたっての留意事項に基づき、利用者、ご家族に対しわかりやすい説明で契約、解約、内容等の変更を説明しています。また改定等においては、文章を発送し説明、同意を得られるようにしています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱とアンケート用紙を設置し、ご家族や訪問者の方々が意見出しやすいようにしています。また利用者の皆様からは日々のケアや年1回の意向調査を行い、日々のケア、業務に活かしています。	利用者全員が運営推進会議に参加し、意見や思いを伝えられる場を作っている。玄関に意見箱とアンケート用紙の設置あり、年に1回は意向調査を実施している。家族には、訪問時や電話等で話しやすい雰囲気作りを心がけている。職員会議で利用者や家族の要望を周知・検討し、日々の業務やケアに反映している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の代表者会議には日頃の事業所の事業報告を行うことで他事業所との連携、また事業の意見等を反映できるようにしている。職員会議を開催(必要時随時開催)全員が参加できる時間帯を工夫、運営に関する職員の意見、提案を確認し、運営、利用者の質の良いサービスに繋がれるよう工夫しています。	管理者は、日ごろからコミュニケーションを図り、職員が意見を言いやすい雰囲気を心がけている。利用者への日ごろのケアからの気づきやアイデアを運営に取り入れ、法人へ提案し質の良いサービスにつなげられるように工夫している。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給と年2回の賞与、職員の資格に応じ、資格手当の支給をしています。資格取得助成金制度で職員が資格取得しやすいように支援しています。年5日年休取得義務化に伴い規定を整備しています。	就業規則が整備され、有給休暇の取得や資格取得に向けた支援、研修会への受講支援がされている。健康診断は、勤務形態により年に1回または2回の実施とストレスチェックも実施されている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に合わせ法人内、各事業所、法人外研修に参加させることで、力量の向上、資格取得に向けた支援を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人全事業所合同勉強会、行事等を通し、職員との交流を行っている。町、公立病院主催の勉強会を通し、他事業所とのネットワークづくりをおこなっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い職員が積極的に声かけを行いながら、ニーズの把握をし、不安なく、安心して暮らせるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に情報収集を行い、施設等の説明を行うと共に家族からの要望、疑問点等にお答えし、いつでも要望が話せるような関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況に応じて、他の施設や、法人のサービス等を紹介したりしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業等を通し役割を持つ事でやりがいの持てる生活環境に努めるとともに、本人の生活習慣等を知り、宛での生活、共に暮らせる関係性を築いています。三食の食事を利用者と職員が一緒に頂く事で家庭的な雰囲気を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族へは、月一回まがい通信(広報誌)を送付したり、面会で施設を訪れた際、入居者の状況報告を行い、ご家族からの要望等がないか確認を行っています。また必要時はご家族と電話での対応を行い、本人を支えていく関係性を築いたことでご家族が宛へ足を運ぶことが多くなりました。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の馴染みの人、場所を把握しており、機会があるごとに出かけ馴染みの方との再会、交流の場ができる支援をおこなっています。	事業所に入居してからも、これまで通り社会福祉協議会の職員と一緒にいた行事に参加したり、友人や近所の人たちとの関わりや交流が継続できるように、時間を決めて自宅に帰ることができる支援をしている。ドライブで馴染みの場所に出かける機会をつくったり、利用者がこれまで行っていた趣味の編み物などの手工芸にも取り組めるように支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係をみながら、席の配置を調整したり、スタッフが間に入るなどコミュニケーションが取りやすいよう配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	関係を断ち切らないよう支援していく予定であるが、現在そのような事例がありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人に要望を訪ねたり、日頃の会話の中からニーズの把握に努めています。年一回の意向調査を行い思いや意向に努め、日頃の処遇に努めています。	日々のかかわりの中で本人の希望や思いを把握するように心がけている。利用者の情報は職員間でも共有している。利用者からの思いや希望が把握困難な時は、言葉や表情から真意を推し測ったり、家族や関係者から情報収集し確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境を把握し、サービス利用、経過観察に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	3か月に一回のモニタリングを通し、一人一人の身体、能力、ADL、QOLの確認を行い、レベルに合わせた暮らし方が送れるよう努めています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月に一回のモニタリングを通し、見直しを行い、ご本人、家族の希望を伺い、スタッフとの話し合いを行い、介護計画を作成します。	利用者や家族には日頃の関わりの中やサービス担当者会議が開催される半年に1回の参加時等に思いや意見を聞き反映させるようにしている。アセスメントを含め介護計画など職員全体で情報共有やモニタリングを実施し、介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の日々の生活状況、実践、結果気づき等の記録を行い、職員間情報共有を行い、介護計画に取り入れ日々の生活の支援を行う。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者が急に家族に会いたい、出かけたい等のニーズに対しては柔軟な対応を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	出張理容サービス2ヶ月に一回行いました。また昨年度は地域や町主催の行事等、ボランティアによる余興など依頼し地域資源を活用し楽しみましたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止に向け自粛しています。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の訪問診療(必要時は随時対応)を受け主治医に状況報告行い、今後の対応について確認を行っています。必要時は家族へ状況等の説明を行い対応しています。	利用者全員が訪問診療で主治医の診察を受けている。急な体調不良は職員が付き添い島内医療機関へ受診している。家族への診察時の情報提供は書面、口頭、電話を活用し実施している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、看護師と入居者の状況等の報告を行い、体調不良の方については今後の対応について指示を仰いだり、個々の利用車が適切な受診や、看護を受けられるよう連携をおこなっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院等について主治医、地域連携室等との連携を密に行い、入退院の支援に繋がっています。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や週末期ケアについて主治医、家族、施設(法人)、職員が連携を行い、事態に対応できるよう勉強会の開催、家族との連携を密におこなっている。	重度化した場合における対応に関する指針を利用者家族へ書面を使って具体的に説明している。看取りを希望する利用者、家族には訪問診療と連携をとっている。法人において職員研修を行い看取りについて知識情報をえる機会を確保している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人や施設内等で利用者の急変、事故発生時に備え研修会、訓練の実施を行っています。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練・夜間避難訓練(初期消火・通報・避難誘導等)及び町災害訓練に参加。台風発生(緊急時)等、状況で法人施設への避難、法人全体で災害時の協力体制を整えています。	避難訓練は、年2回(夜間想定も含め)実施している。地域とのかかわりとして近隣の観光ホテルへ訓練実施の情報提供をしている。周辺環境として施設前が海、後ろが川という条件を踏まえ暴風高波被害が予想される時には法人本部へ避難することを繰り返している。職員の防災意識の高さがうかがえる	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけ、対応をしています。	利用者の話をよく聞き、プライバシーを損ねないような言葉かけと態度を省みながら適切な働きかけを意識している。利用者への対応の困りごとや悩みを職員同士で話し合い、意見交換を通じて共有している。トイレは扉と内側にカーテンがある二重構造になっており、プライバシーに配慮したつくりを意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の要望を伺いながら、本人が声を出しやすい環境作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	余暇活動等は入居者の希望を伺ったり、一人ひとり興味もてるものなど、工夫し希望に添った柔軟な対応を行なっています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみや着替えの際は本人の意向を伺いながら対応しています。また定期的に出張理容サービスを利用し整髪し見だしなみを整えています。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の皆さんへ食べたい物が無いかなど、聞いたり、料理の本と一緒に見ながら、メニューを決めたりしています。旬の野菜の差し入れ等があり、皮むき、根取り等をしたり、食事の片付け、配膳、テーブル拭きを手伝ってもらいます。食欲増進、咀嚼力アップに向け、食前の口腔体操の実施。職員も一緒に食事を頂き、弾む会話等があり、楽しく食事を頂いています。	3食を事業所内で手作りしている。調理の工程、下ごしらえ、食器洗いを利用者にも手伝ってもらい協働作業に参加する機会をつくっている。食事全介助が一人、半介助が二人おり、介助見守りを行っている。食事中は会話を多くして楽しい雰囲気づくりを意識している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後食事摂取量をチェックし摂取量の少ない方については主治医と相談し高カロリー補助食品で対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後(おやつ後必要な方)口腔ケアの促し行うと共に、一人ひとりの口腔状態にあったケアを支援し、口腔内の清潔保持に努めています。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握、時間を見計らいながら声掛け、トイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っています。	利用者個々の記録から排泄パターンを把握した上でトイレへの促しを行っている。事業所内に3か所トイレの場所があるが、利用者の特性に合わせて、利用者間のトラブルを避けるため、職員が適宜把握のしやすいトイレへの案内をする配慮を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取、食事の促し、運動(体操・レク活動)へ積極的な参加ができるよう声かけ促しをおこなっています。服薬がある方については、主治医等に相談し予防に取り組んでいます。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2~3日間隔で入浴を行い、入居者の方から希望がある時、又はその都度調整対応、個別でゆっくり入浴ができるよう支援しています。	入浴の時間帯を基本午前中とし、利用者の希望や体調に合わせて、時間帯の変更、曜日の振り替えを行って柔軟に対応している。羞恥心に配慮し一人一人入浴が楽しめるよう週2回から3回の個別浴を行っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり生活習慣等を把握し安眠や休息支援を行っている。また眠前薬を服用している方については、就寝前に服薬を行い、安眠の支援をしている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を受け適切な服薬・管理を行っている。利用者一人ひとりが使用している服薬を理解、変更等がある場合、その都度申し送りして報告、記録、職員会議で伝えている。	服薬支援マニュアルが存在しているが、前回の誤薬事故から半年内に再び誤薬事故が起こっている。事故報告書において原因究明、改善策が抽出されているが、再発防止に向けた検討会議の開催が確認されていない。	再発防止に向けた検討会議の開催と議事録の作成、対策への取り組みと職員への周知徹底が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の身体状況に応じた軽作業への参加、役割を持たせ行う事で達成感、満足度をもてるよう支援している。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族が対応可能な方は頻度に外出し自宅へ帰るなどしたり、外出、地域行事、法人での行事に参加するなど、外出、地域行事、法人での行事に参加するなど外出支援を行っています。	花見や名所を巡るドライブなどを利用者のニーズに合わせて行っている。家族と相談のうえ、外出、外泊する利用者もおり個別の対応を心掛けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人で管理できる方は所持しています。必要時本人と一緒に買い物するなどの支援を行っています。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時は、その都度対応を行っています。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間で入居者の方々が心地よく過ごせるよう照明器具の光量、テレビやラジオの音量等は職員がその都度調整を行っています。壁面等には利用者の皆さんの作品や季節の飾り付けをするなど配慮しています。	デイルームとしている共有空間は天井も高く採光も多く開放感があり、集いのスペースとして機能している。壁面には季節毎にテーマをもち、作業療法の一環として飾りをつくり彩を加えている。玄関スペースには一時的な面会場所としての機能を持たせて空調整備を実施している。重要事項説明書などの書類の掲示を行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の個々の関係性をみながら席の配置等の工夫をしています。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人が自宅で愛用していた家具など配置、希望者には、テレビ、ラジオカセを置くなど居心地よく過ごせる環境づくりに配慮しています。	各居室は利用者の持ち込みの家具、鏡台の持ち込み、孫や夫の思い出の家族写真が飾られているなど各々のプライベート空間となっている。居室で趣味の編み物に没頭する利用者の姿も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内は全面バリアフリー手すりの設置を行い、3か所あるトイレは車イスの方でも安全に、使用でき、できるだけ自立した生活が送れるよう配慮しています。居室の入口には、写真とネームプレートを掲示、居室がわかるように配慮しています。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	47	服薬支援マニュアルが存在しているが、前回の誤薬事故から半年内に再び誤薬事故が起こっている。事故報告書において原因究明、改善策が抽出されているが、再発防止に向けた検討会議の開催が確認されない。	①マニュアルの確認、再整備の見直し ②再発防止に向けた検討会議の開催 ③事故後の状況の確認を行う。	①マニュアルを全職員で確認し、再整備を行う。 ②再発防止に向け検討会の開催具体的に行う。 ・服薬の当番決めが守っているか。(朝)早番(昼)日勤(夕)夜勤・本人と薬袋に書かれている名前が一致しているか。 ③事故後の状況の確認を行う。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。